

第2学年 音楽科 学習指導案

日 時 平成20年11月6日(木) 5校時
学 級 2年C組 (30名)
場 所 音楽室
指導者 本館 友枝

1 題材名 我が国の音楽、世界の諸民族の音楽

※指導内容…学習指導要領「第2学年 B鑑賞(1)ア及びウ」

ア 声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される曲想とのかかわりを理解して、楽曲全体を味わって聴くこと。

ウ 我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を理解して聴くこと。

a 楽器の音色 b リズム c 旋律 d 音楽の多様性

2 題材について

(1) 題材観

この題材では、我が国と世界の様々な音楽を幅広く聴かせることによって、音楽を形作っている諸要素の中から楽器の音色、リズム、旋律についてその違いを感じ取らせ、音楽の多様性を理解させることをねらいとする。教材としては、楽器の音色については弦楽器の音色に注目させ比較聴取させることとする。「リズム」を感じ取らせるための教材としては、主にインドネシアの民族音楽ケチャを使用する。「旋律」の特徴を感じ取らせるための教材は主に沖縄音楽を使用する。いずれもその特徴がはっきりしており、その違いを感じ取りやすい。世界の諸民族の音楽を我が国の音楽と比較させて聴くことで、それぞれの曲全体を味わい、音楽の多様性を理解させたい。

(2) 生徒観

本学級は、全体的に素直で一生懸命頑張ろうとする雰囲気がある学級である。音楽については「好きだ」と感じている生徒が多いが、男子生徒の約半数は「あまり好きではない」「好きではない」と感じている。また、「好きだ」と感じている生徒の多くは「歌うこと」が楽しいと感じており、鑑賞については曲を聴いてもよくわからない、おもしろくないと感じている生徒が多い。

これまでに鑑賞の授業では「春」「魔王」「映画音楽」「アカペラの音楽」などを学習した。音楽から場面を想像したり（「春」）、楽譜をもとにして音高とそれによって表現される心情の変化を読み取ったり（「魔王」といった活動を行ってきている。ほとんどの生徒が音楽から受け取るイメージや感じを自分なりの言葉で書き取ることができるようになってきた。しかし、どうし

てそう感じるのか、感じの違いは何の違いによるものなのかの問いかけには答えられない生徒が多い。そこで今回の題材では、楽器の音色、リズム、旋律の違いからその国らしさが生まれるということに気付かせ、これらの要素と曲想との関係を学ぶとともに、より広く世界に目を向けさせ音楽の多様性を理解させたい。

(3) 指導観

本題材では、楽器の音色、リズム、旋律に注目して「その国らしさはどこからくるのか？」について考えることによって、これらの諸要素と曲想の関係を学ぶとともに音楽の多様性を理解させたい。楽器の音色については弦楽器に注目し、既習したヴァイオリンと、中国特有の音色をもつアルフー、日本の三味線などの音色を比較聴取する。同じ弦楽器でも地域によって様々な音色があるということを感じ取らせたい。リズムについてはケチャを鑑賞し、日本から遠く離れた地で生まれたリズム音楽のおもしろさを感じさせたい。旋律については、日本の旋律のなかでも特徴的な沖縄の琉球音階を見つけ出す活動によって、これまでほとんど意識してこなかったであろう旋律の仕組みについて興味をもたせたい。そしてこれらの要素が、私たちが感じ取る「～風」という感じに深く関係しているのだということを理解させ、世界の多様な音楽を幅広く楽しむ姿勢を育みたい。

3 題材の指導目標

【音楽への関心・意欲・態度】

我が国や世界の諸民族の音楽の楽器の音色、リズム、旋律及び音楽の多様性について関心を持ち、意欲的に聴く。

【音楽的な感受や表現の工夫】

我が国や世界の諸民族の音楽の楽器の音色、リズム、旋律及び音楽の多様性を感じ取る。

【鑑賞の能力】

我が国や世界の諸民族の音楽の楽器の音色、リズム、旋律及び音楽の多様性を理解し、楽曲全体を味わって聴く。

4 単元の指導計画（2時間扱い）

第1時 ・様々な地域の音楽を聴き、音楽の構成要素にはどんなものがあるかを考える

・様々な地域の音楽を聴き、その特徴の秘密を探る① …リズム

第2時 ・様々な地域の音楽を聴き、その特徴の秘密を探る② …楽器の音色、旋律(本時)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・楽器の音色、旋律の特徴及び音楽の多様性を感じ取っている。
- ・楽器の音色、旋律の特徴及び音楽の多様性を理解し、楽曲全体を味わって聴いている。

(2) 具体の評価規準

	十分満足できると判断される状況(A)	概ね満足できると判断される状況(B)	努力を要する生徒への指導の手だて
【観点2】 楽器の音色、旋律の特徴及び音楽の多様性を感じ取っている。	楽器の音色の比較聴取では、違いを感じ取り、その理由とともにプリントに記入している。 [プリントへの記入例] ・ヴァイオリンの音に比べてアルフーの音色はのびやかなので中国風な感じがする	楽器の音色の比較聴取では、違いを感じ取ってプリントに記入している。 [プリントへの記入例] ・ヴァイオリンの音は西洋の感じがし、アルフーの音は中国風な感じがする	楽器の音色の比較聴取では、ヒントとなる言葉をもとに自分の考えを書かせ、友達の発言からさらに補足させる。
	旋律の特徴では、楽譜をもとにして音階に使われるいくつかの音に気付き、音階として並べている。	旋律の特徴では、楽譜をもとにして音階に使われるいくつかの音に気付いている。	旋律の特徴では、友達の発言に注目させ、実際に音を出すよう促して自分の耳で確認させる。
【観点4】 楽器の音色、旋律の特徴及び音楽の多様性を理解し、楽曲全体を味わって聴いている。	学習したことをもとに、楽器の音色と旋律の両方の特徴を捉えて曲を批評している。また、楽器の音色、旋律のいずれかの特徴を捉え、音楽の多様性を理解して曲を批評している。 [プリントへの記入例] ・中国風の音楽は楽器の音ののびやかなのでゆったりとしている。沖縄の音楽は音階自体が明るいので曲も明るい感じがする。 ・同じ弦楽器でも国や地域によって音色がまったく違い、アルフーの音色は三線の音色に比べると張りがありのびのびとしているので、中国風の音楽はゆったりとしている感じがする。	学習したことをもとに、楽器の音色、旋律のいずれかの特徴を捉えて曲を批評している。 [プリントへの記入例] ・中国風の音楽に比べて沖縄風の音楽は使われている音階が陽気な感じなので、曲全体が楽しい感じがする。	机間指導による声がけでは、中国風の音楽では楽器の音色に注目させ、沖縄の音楽では旋律について注目させる。友達の発言をもとに、自分のプリントに補足させる。

(3) 本研究との関わり

本時の授業において、「学び合い活動」の場を次のように考え、設定した。

◆学級全体による考え等の交流の場

- ・楽器の音色の比較聴取において、自分が感じ取ったことを発表しあう。

◆小グループにおける自分の考え、気付いたことの話し合いの場

- ・旋律の特徴を探る場面で、楽譜をもとにグループで話し合う。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項 (◆学び合い活動 ◎評価)
導入 15分	1 既習事項の確認	・音楽の構成要素のうち、前時に学習したリズムを中心に確認する。	
	2 世界の弦楽器の音色の比較聴取をする	・様々な音楽を聴き、どの地域の音楽かを考える。 ・ヴァイオリンの音色とアルプスの音色を聴き比べ、感じたことをプリントに記入し、発表する。	・西洋、中国、日本の弦楽器の音色を聴かせる。 ◆考えの交流 【全体】 ◎プリントへの記入・発言 【観点2】
	3 日本の弦楽器の音色の比較聴取をする	・津軽三味線の音色と三線の音色を聴き比べ、感じたことを発表する。	・楽器の音色以外の「～風」を生み出す秘密とは何かを考えさせる。
「～風」の秘密を探ろう			
展開 30分	4 都節音階を理解する	・日本の音階の例として都節音階を楽譜にしてみる。 ・都節音階をリコーダーで吹いてみる。	・既習曲「南部牛追い唄」を使用。
	5 「沖縄風」の旋律の特徴を探す	・琉球音階を探し、プリントに記入する。 ①自分なりの考えをプリントに記入 ②グループでの考えの交流 ③全体で確認 ・沖縄の音階を確認し、リコーダーで吹いてみる。	・沖縄の音楽の楽譜を提示し、リコーダーで音を出してしながら琉球音階を探させる。 ◆自分の考え・気付いたことの話し合い。 【小グループ】 ◎プリントへの記入・発言 【観点2】
	6 課題についてのまとめとその確認	・「中国風」「沖縄風」の音楽を聴き、学習したことをもとにして曲の批評をする。	◎プリントへの記入・発言 【観点4】
終末 5分	7 本時のまとめをし、次時へつなげる	・プリントのまとめを記入し、自己評価をする。	